

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	武井 祐子	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(臨床心理学)	
学位授与番号	乙第23号	
学位授与日付	平成27年3月13日	
学位授与の要件	学位規程第3条第4項該当	
論文題目	幼児気質質問紙の作成とその臨床的応用の可能性	
審査委員	教授 寺寄 正治	教授 金光 義弘
	教授 永田 博	

博士論文内容の要旨

この論文で取り上げられた一連の研究は、日本人の養育者に適合した幼児気質質問紙を作成することが1つの目的であった。もう一つの目的は、この質問紙を臨床の場で用いることにより、養育者に対してどのような援助が可能であるかを実証的に検証することであった。この幼児気質質問紙は、本邦における既存の質問紙が有していた問題点を考慮して新たに作成されたもので、尺度の信頼性や妥当性が実証的に検討され、十分に信頼性と妥当性を持つことが確かめられた。さらに臨床の場においては、この質問紙を養育者の育児不安の低減に役立てるための道筋について明らかにしようとした。こどもの気質特徴と養育者の育児不安の間には関連性が有ること、さらに、こどもの気質特徴が養育者の育児に対する自己効力を低下させることを通して育児不安が高まることを明らかにした。これらのことから、養育者に対してどのような支援が有効かを論文中で論議している。

博士論文審査結果の要旨

こどもの個性を尊重した養育や教育の必要性が指摘されてから久しいが、その具体的取り組みの基礎となる知見と道具の研究開発に関しては、乏しいのが現状である。本論文の著者は一歳六ヶ月健診に相談員として係わってきた経験をもとに、幼児の気質を測定するための道具を新たに開発することが必要であることを痛感した。このような動機にもとづき、日本人に適合する幼児気質質問紙を作成することを目指した。この博士論文は幼児気質質問紙の作成と臨床への応用の可能性についての、約14年間におよぶ研究成果をまとめたものである。その間に、発表したこのテーマに関連した学術論文の数は18(内、14は査読有り)におよんだ。このように長年にわたる地道な研究を行った背景を持つことや、社会的な観点からも有意義であることを審査者全員が高く評価した。臨床への応用という点に関しては、未だその実績が乏しいとの指摘もあったが、現在そのような研究に着手しており、今後の成果が期待できるとの評価を行った。以上のことから、この論文が博士論文として合格であるとする判断を審査者全員一致で行った。